

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	森林整備地域活動支援事業	会計	一般会計	事業No.	422	施策順No.	11-028	
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-2-2-12-3			
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	林務課			
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	14	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	森林整備協定締結者 森林施策計画対象区域内の森林						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	協定締結団体、代表者数(人)		12	13	13	13		
	対象をどう変えるか	積算基礎森林面積(ha)		1392	1319	1304	1304		
	意図	間伐等森林整備が進む 森林に対する意識の高揚							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		森林施策計画区域内の森林整備面積(ha)	249	157	148	150	158	158	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		目標に対し十分な成果が図られた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	平成22年度までの森林整備地域活動支援交付金事業のメニューは「施業実施区域の明確化事業」「森林の被害状況等確認」等であったが、H23年度から「森林経営計画(仮称)作成促進」「施業集約化の促進」「森林作業道の点検修繕」等に変更になった。 H23年度以降に間伐促進事業を施工するためには、この森林経営計画の策定等が必須条件となり、業務を行い計画的に施業を行う団体への活動に対して交付金として支給される。このように「集約化して団地化すれば間伐促進事業が施工できる」ように事業が変更になった。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	12団体(協定締結14)に交付金を交付 平成22年度に限り、上記当該森林で「森林の現況被害状況等」を把握し報告することにより、1ha当たり1万円を交付する。(全額国費補助金) (147.0ha×1万円=1,470千円)	交付金額(千円)	7,990千円
23年度実施計画	森林経営計画(仮称)作成促進 600ha×8,000円=4,800千円  施業集約化の促進 80ha×48,000円=3,840千円 300ha×32,000円=9,600千円  森林作業道の点検修繕 1,036ha×5,000円=5,180千円  合計 2,016ha 23,420千円	交付金額(千円)	23,420千円

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)森林整備地域活動支援交付金(国1/2、県1/4)
	国庫支出金					
	県支出金		6,713	6,360	17,565	
	起債					
	その他					
一般財源		1,702	1,630	5,855		
計(A)		8,415	7,990	23,420		
正規職員所要時間			180			
臨時職員等所要時間			10			
人件費計(B)			654			
トータルコスト A+B			8,644			

4 事業に対する市民や議会の意見

特になし
------

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	林業生産額(億円)
この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか	4年間の振り返り	森林所有者が森林に入ることによる森林に対する親近感が高まり、森林の重要性に対する関心度が増し、森林整備が促進され自然環境の保全がなされた。		経済的自立度(%)
	後期に向けた課題	平成23年度より、事業メニューが変更になり間伐の材をできる限り搬出しなければならない。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	該当13団体との連携を図った。		
	後期に向けた課題	13団体と、新たに森林組合との連携を図る。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	計画的な事業の実施による。		
	後期に向けた課題	計画的な事業の促進を図る。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	交付金という形態のため、受益者負担金は発生しない。		
	後期に向けた課題	現状の継続		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	森林保全管理活動推進のため、交付金を活用して境界確認や歩道整備等を実施した。		
	後期に向けた課題	事業メニューの変更に伴い、搬出間伐の推進に向けて事業実施を図る。		
全体を通じて	4年間の振り返り	森林所有者の持山に対する関心度が増すことで自然環境の保全がなされた。		
	後期に向けた課題	材木の価格が一番安価な時期に、事業メニュー変更に伴い搬出間伐を推進しなくてはならないが、森林所有者の同意が得られるか心配である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	------------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------